

6 日本水準原点

明治24年(1891)5月、国は日本全国の土地の標高の原点をここに定めた。明治6年からの東京湾の潮位観測による平均海面位置から24.5000メートルの数字をはじめ出したが、関東大震災(1923年)で変動し、1928年に現在の値(24.4140メートル)がこの建物のなかの台石の水晶板の目盛りの零線に刻まれている。建物は小さいが、ローマ風神殿建築様式を模した明治期の貴重な近代洋風建築である。



3 将門首塚

時は平安時代、朝廷に反旗をひるがえし常陸から下総、下野など関東8カ国を平定し自ら新皇と名乗った関東武士・平将門は、天慶3年(940)、平貞盛・藤原秀郷に攻められ下総国で滅ぼされた。その首は京の都大路でさらされたが、その3日後に生首は白光を放ち東方に飛び去った。その落ちたところがこのことであるという。その後、この場所にかかわるいくつもの祟りの伝説が生まれている。



2 迷子しらせ石

常盤橋の東に架かる一石橋のもとにある。このあたりは日本橋付近の盛り場で、安政4年(1857)に付近の有力者が建立した。高さ約1.8メートル、正面に「満よひ子の志るべ」、右側に「たづぬる方」と刻まれ、迷子を探す人が左側に迷子の特徴を書いた紙を貼り、それを見て心当たりのある人が右側に紙を貼って知らせた。庶民の告知板である。



1 日本橋

慶長8年(1603)江戸開幕の年に架橋し、翌年、五街道の起点と定められた。日本橋は今も国道の起点となっている。最初は丸太の二本橋であったともいわれるが、寛永の初期(1630年ころ)作の「江戸図屏風」では、擬宝珠(ごぼし)つきの立派な反り橋として描かれている。現在の橋は明治44年(1911)に架けられたものである。



5 日比谷公園

明治36年(1903)に都市計画により誕生した日本で初めての洋式近代公園である。江戸時代は松平肥前守等の屋敷で、その後は陸軍練兵場であった。関東大震災や戦災による被害を受けているものの、心字池や雲形池、第一花壇等は開園時の姿をとどめている。心字池に隣接する石垣がかつての日比谷見付跡である。官庁街とビジネス街に挟まれ、一年を通して都民の憩いの場である。

4 東京駅

日本の近代オフィス街の嚆矢であった丸の内「丁種ロンドン」は、明治27年(1894)竣工の三菱一号館に始まるが、交通は市電しかなく不便であった。そこで辰野金吾工学博士設計による中央停車場(東京駅)が、大正3年(1914)に完成した。これが現在丸の内側に残っている赤煉瓦造の駅舎である。現在駅前は再開発が進み、東京の新しい玄関口としての姿を変えつつある。



消防博物館

消防博物館は、消防の歴史や消防器具の展示、消防士の体験など、消防に関する様々な展示が楽しめる。また、消防の歴史や消防器具の展示、消防士の体験など、消防に関する様々な展示が楽しめる。



2022年まで現役だった消防ヘリコプターの展示、蒸気ポンプ、江戸の火消したちの道具など、消防の歴史や消防器具の展示、消防士の体験など、消防に関する様々な展示が楽しめる。